



2025 年 12 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社 WOLVES HAND
代表者名 代表取締役 CEO 兼 COO 北井 正志
(コード：194A、東証グロース市場)
問合せ先 執行役員 CFO 田中 哲生
(TEL. 06-6599-9106)

フコキサンチノールを活用した新たな化学療法の臨床研究開始のお知らせ

当社は、2025 年 12 月 10 日開催の経営会議において、以下のとおり、褐藻類由来成分フコキサンチンの主要代謝物であるフコキサンチノールを活用した獣医療領域では初となる化学療法の研究プロジェクトを開始することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

1. 企業化に向けた研究プロジェクト開始に至るまでの経緯

フコキサンチノールは、昆布やワカメ、モズクなどの褐藻類や植物プランクトンに含まれるカロテノイド色素「フコキサンチン」の主要代謝物です。フコキサンチンはそのままでは吸収率が低いことが知られていますが、体内でフコキサンチノールへ変換されることで初めて吸収されるという特性があります。

近年、ヒトのがん治療領域において、この代謝物そのものに注目した研究が海外・国内ともに進んでおり、国立大学や国立がん研究センターからも関連論文が報告されています。

これまでのヒトのがん治療領域の基礎研究では、炎症シグナルや細胞周期、細胞の生存機構に関連するさまざまな経路に対してフコキサンチノールが作用する可能性が示唆されてきました。特に、NF- κ B や COX-2 をはじめとする炎症関連因子に関する報告、細胞外マトリクスからの剥離に伴う細胞挙動やフェロトシスなどの細胞メカニズムへの関与、上皮間葉転換 (EMT) に関連する研究など、多角的な領域で関心が高まっています。また、IL-6 に関する研究報告もあり、腫瘍における細胞生存性や薬剤耐性にも関わるシグナルであることから、さらなる検証が求められています。

当社の獣医先端医療研究所（岡本芳晴獣医学博士／執行役員）では、これらの学術的知見を踏まえ、フコキサンチノールの生体作用の理解を深めるとともに、がん領域における応用可能性を科学的に検討する研究プロジェクトを立ち上げ、まずは口腔内メラノーマ（悪性黒色腫）への抗がん作用の臨床研究を開始いたします。

2. 研究プロジェクトの概要

(1) 研究プロジェクトの概要

本研究プロジェクトは、基礎的データの集積と安全性評価を丁寧に進めながら、将来的な臨床応用の可能性を探ることを目的としています。フコキサンチノールは多面的な作用が報告されている一方で、現在までの研究・実務上の経験では大きな副作用が見られていないという点でも注目されています。

当社は、今後も学術的根拠の蓄積と科学的評価を重ねながら、革新的な治療開発につながる可能性を追求してまいります。

(2) 研究プロジェクトの連結売上高への影響

連結売上高への影響は軽微であります。

- (3) 研究プロジェクト開始のために支出する費用及びその内訳
現時点におきまして、新たに支出する費用はありません。

3. 日 程

(1) 経 営 会 議 決 定 日	2025 年 12 月 10 日
(2) 研 究 開 始 日	2025 年 12 月 15 日 (予定)

4. 今後の見通し

本件が当社業績に与える影響は軽微であります。

以上